



津奈木中学校体育大会フォトレポート

# 躍動

【写真説明】 1力強く宣誓する両団長 / 2笑顔で津奈木小唄を踊る生徒と婦人会 / 3我が子の勇姿をカメラに収める保護者 / 4 5応援団競演の制限時間は5分間。団長を中心に全員が息の合った演舞を披露 / 6力と力がぶつかり合った綱引き / 7堂々とした演技を見せた集団行動 / 8白熱のレースを繰り広げたりレー / 93年生の親子競技では、たくさんの笑顔があふれた



9月19日(土)、津奈木中学校体育大会が同校グラウンドで行われました。当初は5月に予定していましたが、新型コロナウイルスの影響で9月に延期。種目を減らすなど規模を縮小し、午前中のみ開催となりましたが、全校生徒115人は厳しい暑さを吹き飛ばすように、全力で競技に臨んでいました。

開会式では、船場校長が「ことは新しい生活様式の中での開催となった。思う存分成果を發揮し、笑顔輝く大会にしてほしい」とあいさつ。赤団長の村嶋郁哉さん(桜戸)、白団長の竹本麻那さん(上下門)が宣誓し、ダンスや徒競走、各学年種目、応援合戦など13種目が行われました。

三年生の親子競技「津中愛く津奈木」の中心で愛を感じる。では、風船の空気入れやおんぶなどで親子が協力。子が重たそうに親を背負う姿に会場から笑いが起こりました。応援合戦では迫力のある動きや気迫あふれる大きな声で保護者などの観客に感動を届けました。

ことしは白団が優勝し、団長の竹本さんは「練習期間が短くて不安だったが、団員心を一つにして優勝を勝ち取ることができてうれしかった。皆さんに元氣と笑顔が届けられたと思う」と喜びの声を上げていました。

## 津奈木町男島仮設団地完成 1日でも早い「住まい」の提供を



### 洗剤詰め合わせ目録贈呈 仮設住宅入居者に支援を

9月25日(金)、生活協同組合くまもとが仮設住宅入居者向けに洗剤詰め合わせ10セットを贈呈しました。同組合理事長の嶋田誠さんは「少しでもお役に立ちたいと思った。今後も継続した支援活動に取り組んでいきたい」と述べられていました。



7月の豪雨災害で長期避難をされている世帯向けの仮設住宅が9月23日(水)に完成し、26日(土)に入居者(9世帯23人)へ鍵を受け渡しました。7月28日(火)に着工し、役場裏の分譲地「さくら団地」内に、県が応急住宅「津奈木町男島仮設団地」と談話室(みんなの家)を建設。木造平屋の5棟10戸で、敷地面積は約1800平方メートル。2DKと3Kの2タイプがあり、エアコンやユニットバス、トイレが備わっています。談話室の玄関に設置した表札は、水俣高校書道部の金澤こころさん(浜崎)と柳迫乙羽さん(大泊)が復興への思いを込めて書き上げました。入居する伊藤シズ子さんは「早く仮設住宅の生活に慣れたい」と話していました。仮設住宅の建設にあわせて、町社会福祉協議会内に地域支え合いセンターを設立。被災者に寄り添った支援を今後も続けていきます。

【写真説明】 1完成した木造平屋の津奈木町男島仮設団地 / 2仮設住宅入居者 / 3室内には県産の木材が使われ、あたたかみのある空間となっている / 4敷地内に談話室「みんなの家」を設置。住民同士で交流ができる

仮設住宅の入居期間は、2022年(令和4年)9月25日までの最長2年間です。